

① BP建設に伴うJR北広島駅西口の利便性について

資料 2

地区	地区づくりの目標	基本方針	計画期間中における取組状況	策定専門委員会における検討内容	
北広島 団地地区	<p>多世代が交流するコミュニティの場を創出します</p> <p>■マスタープランP41</p> <p>子育て期世代の流入を促す集合住宅の供給など、多様な住まい方ができる地区を形成します</p> <p>■マスタープランP41</p>	<p>J R北広島駅周辺や北広島団地内の商業地における利便性や快適性を高め、また地区住民の意見を聞きながら公園の再整備を進め、子どもから高齢者まで多くの人が集まり、交流する場の創出を図ります。</p> <p>J R北広島駅から徒歩圏の利便性の高い場所での、育児や高齢者生活の支援機能を導入しつつ分譲住宅、賃貸住宅といった集合住宅の立地誘導や団地内の容積率の緩和等、多様な住宅供給を可能にし、年齢構成の偏りの少ない地区の形成を図ります。</p>	<p>●J R北広島駅周辺は、商業施設や公共施設の立地、集積を図るとともに、安全で快適に歩ける歩行者空間の整備、駅前西口の市有地は、賑わいや交流の場となる商業・業務施設等の誘導を図ります。</p> <p>●J R北広島駅の交通結節機能を守るため、バス・駐輪場・駐車場・交流広場等の適正な維持管理に努めます。</p>	<p>●平成31年4月1日に公表した立地適正化計画において、北広島駅周辺を都市機能誘導区域に位置付けし、積極的に都市機能を誘導する区域とした。</p> <p>●駅前西口の市有地の高度利用を図るため、平成27年12月に用途地域を第一種低層住居専用地域から第一種住居地域に変更した。</p> <p>●駐輪場の整理及び放置自転車の処分を行い、駐輪場利用者及び歩行者の利便性を確保している。</p> <p>●JR北広島駅の交通結節機能を強化するため、駅西口の利用者が多い、駅前西1番通線の歩道にロードヒーティングを設置した。</p>	<p>●西口に限らず、東口やエルフィンパークの利用者も含めた広い視点で、交流拠点としての駅の有効活用を検討する必要がある。</p> <p>●BPから北広島駅のシャトルバスを降りてからの時間をどのように有効活用してもらうかの仕掛けづくりや、徒歩や自転車ですり寄り・BPに向かう人をどのように回遊させるかの視点が必要。</p>
東部地区	<p>にぎわいとるおいの感じられる地区住民の交流の中心地を形成します</p> <p>■マスタープランP45</p>	<p>大小さまざまな規模の店舗が集積している中央地区の商業・業務機能を強化し、にぎわいを高めるとともに、木や花による緑化、建物のリニューアルなどによりるおいを高め、多くの人が集まる地区住民の交流の中心地の形成を図ります。</p>	<p>●J R北広島駅から徒歩圏の利便性の高い場所は、土地の高度利用を図り、育児支援機能や高齢者の生活支援機能の導入を含めながら、分譲住宅、賃貸住宅など中高層の集合住宅の立地を含めた多様な住宅供給を促進し、既存の都市機能の集積を生かした、都市の快適性が感じられるまちなか住宅地の形成を図ります。</p> <p>●J R北広島駅周辺は、商業施設や公共施設の立地、集積を図るとともに、安全で快適に歩ける歩行者空間を整備し、人が集まる快適な商業・業務地の形成を図ります。</p> <p>●J R北広島駅周辺や商業施設、コミュニティ施設など人が多く集まる場所を中心として、広くて段差のない歩道などだれもが利用しやすく、安全で快適な歩行者空間の形成を図ります。</p> <p>●J R北広島駅の交通結節機能を強化するため、東口の利用状況を見ながら、駅前広場の充実を図ります。</p>	<p>●平成平成31年4月1日に公表した立地適正化計画において、北広島駅周辺を都市機能誘導区域に位置付けし、積極的に都市機能を誘導する区域とした。</p> <p>●創業に係る補助制度の整備や既存商工業者の経営安定に係る支援を、商工会との連携により実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き店舗利用促進事業 ・中小企業者等融資事業 ・小規模事業者指導推進事業 	<p>●試合のない日にもにぎわいを創出できるような、施設の設置等の検討が必要。</p> <p>●「にぎわいと利便性に加えて、交流拠点としての機能を発揮させる使い方の検討が必要。」などの記載を加えることを検討。</p>

② サイクリングネットワークについて

地区	地区づくりの目標	基本方針	計画期間中における取組状況	策定専門委員会における検討内容	
北広島 団地地区	多世代が交流するコミュニティの場を創出します ■マスタープランP41	JR北広島駅周辺や北広島団地内の商業地における利便性や快適性を高め、また地区住民の意見を聞きながら公園の再整備を進め、子どもから高齢者まで多くの人が集まり、交流する場の創出を図ります。	●トリムコースなどを活用し、通勤、通学、買い物など日常の移動やレクリエーションにおいて、より安全、便利に楽しく利用できる歩行者・自転車道路ネットワークの形成を図ります。道道札幌恵庭自転車道線のJR北広島駅以南の整備を進めます。また、市道中央通線に自転車・歩行者通行空間の整備を進めます。	●市道中央通線の歩道整備を実施した。 ●トリムコースなどの歩行者・自転車道路ネットワークを補完するため、市道中央通線の自転車歩行者通行空間の整備を実施した。 ●道道札幌恵庭自転車道線については、整備主体である北海道に対し整備促進を要望している。 ●平成12年に「北広島市自転車利用環境整備計画」を立て、自歩道の整備を実施したが、その後は計画の見直し等行われていない状況。	
東部地区	市内外住民がさまざまな交流する広域交流拠点を形成します ■マスタープランP45	市内や市外の住民同士が自然や文化、スポーツ、レクリエーションなどのさまざまな活動を通して、活発に交流するため、きたひろしま総合運動公園などの施設整備の推進や既存施設の機能の充実を図り、広域交流拠点の形成を図ります。	●近隣市町を連絡する広域的なサイクリング・ネットワークを形成するため、道道札幌恵庭自転車道線などの整備を促進するとともに、沿道に休憩施設等を配置します。 ●地区内の河川や主要公共施設を結ぶ歩行者・自転車道路ネットワークの形成を図ります。	●サイクルツーリズム等、観光拠点整備事業において実施している。 ●令和3年の完成を目標に南9号線の狭隘な歩道の拡幅に向け、測量等を実施した。 ●道道札幌恵庭自転車道線については、整備主体である北海道に対し整備促進を要望している。	
大曲地区	大曲会館とふれあい学習センターなどを結ぶ地区を交流の中心地として形成します ■マスタープランP51	子どもから高齢者まで、さまざまな人が強くつながる地区を形成するため、行政機能の中心である大曲会館の周辺と交流機能の中心であるふれあい学習センターの連携を強化し、これらを結ぶ地域商業地と合わせて、地区の文化や住民間の交流を育てる場の創出を図ります。	●国道36号や道道栗山北広島線などを利用して地区間を結ぶサイクリング・ネットワークの形成を図ります。 ●既存道路を活用して地区内を循環する歩行者・自転車道路ネットワークの形成を図ります。	●サイクルツーリズム等、観光拠点整備事業において実施している。	●今後の道道札幌恵庭自転車道の整備について、北海道と協議を継続するべき。 ●普段において自転車を使う市民の目線に立ち、安全に配慮する必要がある。 ●BPに繋がる自転車道はある程度完成しているため、今後は歩行者の安全に配慮した整備を進める必要がある。
西部地区	生活の利便性を高めながら、コンパクトな市街地を形成します ■マスタープランP57	西部小学校、西部中学校の周辺に生活の利便性を高める公共・公益施設を配置しつつ道路や公園などの都市基盤施設を整備し、地区における中心地を形成するとともに、市街地内における中心地を形成していない土地を有効に活用し、緑に囲まれたコンパクトな市街地の形成を図ります。	●国道36号などを利用して地区間を結ぶサイクリング・ネットワークの形成を図ります。 ●既存道路を活用して地区内を結ぶ歩行者・自転車道路ネットワークの形成を図ります。	●サイクルツーリズム等、観光拠点整備事業において実施している。 ●平成31年4月1日に公表した立地適正化計画において、居住環境維持・保全地域及びコミュニティ形成地区に位置付けし、地域の利便性を確保することとした。また、公共施設総合管理計画の策定に伴い、現在個別施設計画の策定を行っている。 ●輪厚中央通の全線開通に伴い、歩行者・自転車ネットワークが図られた。	●BPに利便性の向上を考慮した駐輪場の整備が必要。
西の里 地区	徒歩や自転車で楽しく移動できる道路ネットワークを形成します ■マスタープランP63	西の里小学校や中学校への通学、商店街での買い物、公園やJR上野幌駅の利用など、日常的な地区内の移動が便利に楽しく行われるように良好な歩行者・自転車道路ネットワークの形成を図ります。	●近隣市町を連絡する広域的なサイクリング・ネットワークを形成する、道道札幌恵庭自転車道線沿道に整備された自転車の駅や、学習の森などを、市民の交流の場として活用を図ります。	●サイクルツーリズム等、観光拠点整備事業において実施している。 ●自転車の駅で、レンタルサイクル事業を実施している。各種事業の案内を自転車の駅に掲示することで、情報発信拠点として機能している。 ●大曲椴山線の国道274号～自転車の駅通線間の道路改築及び歩道整備を実施している。また、JR農場橋の架け替えを実施している。	

③ 容積率の緩和について

地区	地区づくりの目標		基本方針	計画期間中における取組状況	策定専門委員会における検討内容
北広島 団地地区	<p>住民主体のルールづくりなどにより緑豊かな住環境を保全します</p> <p>■マスタープランP41</p>	<p>住環境に関する地区住民の多様なニーズに対応するため、地区住民が主体となってきめ細かなまちづくりルールなどを定め、緑豊かな住環境の保全を図ります。</p>	<p>●戸建住宅や集合住宅を中心とした専用住宅地は、住民が主体となってきめの細かいまちづくりのルールを定めます。</p> <p>●北広島団地については、地区住民が中心となって街並みづくりのルールを定め、木や花による緑化、統一感のある色や形の採用など、緑豊かでゆとりある住宅地景観の保全を図ります。</p>	<p>●平成31年4月1日に公表した立地適正化計画において、北広島団地地区を居住誘導区域に位置付けし、生活サービスやコミュニティを持続的に確保する区域とした。</p> <p>●平成18年9月に北広島団地松葉町地区に地区計画を定め、容積率を50%から60%に変更した。</p>	<p>●容積率の緩和については、北広島団地地区に限ったことではない。市内全域を視野に入れて、必要に応じた用途地域の変更を検討する必要がある。</p> <p>●総合戦略との整合を図る面でも、必要に応じた「容積率の緩和を進めます」などの記載が必要。</p>
	<p>子育て期世代の流入を促す集合住宅の供給など、多様な住まい方ができる地区を形成します</p> <p>■マスタープランP41</p>	<p>JR北広島駅から徒歩圏の利便性の高い場所での、育児や高齢者生活の支援機能を導入しつつ分譲住宅、賃貸住宅といった集合住宅の立地誘導や団地内の容積率の緩和等、多様な住宅供給を可能にし、年齢構成の偏りの少ない地区の形成を図ります。</p>	<p>●多様な住宅事情に対応するため、用途地域等の見直しを検討するなど、緑が豊富で良好なコミュニティが維持された住環境の形成を図ります。</p>	<p>●町内会に花の苗を配布し、道路の植樹柵や公園に植栽を行っているが、花の種類や色彩の統一は図られていない。</p> <p>●「歩いて暮らせるまち」を目指し、生活利便施設の立地を図るため、平成27年12月に準幹線道路沿道の第一種低層住居専用地域を第二種低層住居専用地域に変更した。</p>	
西部地区	<p>生活の利便性を高めながら、コンパクトな市街地を形成します</p> <p>■マスタープランP57</p>	<p>西部小学校、西部中学校の周辺に生活の利便性を高める公共・公益施設を配置しつつ道路や公園などの都市基盤施設を整備し、地区における中心地を形成するとともに、市街地内の利用されていない土地を有効に活用し、緑に囲まれたコンパクトな市街地の形成を図ります。</p>	<p>●戸建住宅、集合住宅、商業・業務施設などが立地する一般住宅地は、住環境、商業・業務環境が相互に調和した生活利便性の高い住宅地の形成を図ります。</p>	<p>●平成31年4月1日に公表した立地適正化計画において、居住環境維持・保全地域及びコミュニティ形成地区に位置付けし、地域の利便性などを確保することとした。</p> <p>また、公共施設総合管理計画の策定に伴い、現在個別施設計画の策定を行っている。</p> <p>●「歩いて暮らせるまち」を目指し、生活利便施設の立地を図るため、平成27年12月に市道輪厚中の沢線の第一種低層住居専用地域を第二種低層住居専用地域に変更した。</p>	

④ JR上野幌駅周辺について

地区	地区づくりの目標		基本方針	計画期間中における取組状況	策定専門委員会における検討内容
西の里地区	西の里公民館周辺にコミュニティの中心となる生活拠点を形成します ■マスタープランP63	西の里公民館を中心とした地区に、医療施設や福祉施設、公園などを集積し、地区住民のコミュニティの中心となる生活拠点の形成を図ります。	●水と緑にふれられ、地区住民が交流する場を形成するため、野津幌川については、JR上野幌駅前整備に合わせて地区住民の協力を得ながら木や花による植栽など、河川環境を保全しながら、うるおいのある親水空間の創出を検討します。	●駅のバリアフリー化を中心に継続的に札幌市やJRと協議を実施している。	●駅舎は札幌市、ホームの一部は北広島市と行政界を跨いでいる状況であるが、駅前を含めバリアフリー化の検討が必要。 ●駅周辺に中学校・高校があり通学路の勾配緩和等の検討の必要があるが、10年間で具体化するのハードルが高い。総合計画との連携や教育委員会への確認が必要。 ●駅周辺の通学路の優先的な整備に向けた検討が必要。
	徒歩や自転車で楽しく移動できる道路ネットワークを形成します ■マスタープランP63	西の里小学校や中学校への通学、商店街での買い物、公園やJR上野幌駅の利用など、日常的な地区内の移動が便利に楽しく行われるように良好な歩行者・自転車道路ネットワークの形成を図ります。	●JR上野幌駅周辺は、自然環境との調和や利用者の利便性などに配慮し、関係機関と協力しながら、駅機能を生かした商業・業務施設などの立地誘導について検討します。 ●JR上野幌駅は、関係機関と協力しながら、周辺の自然景観との調和や利用者の利便性等に配慮した駅前整備のあり方について、検討を進めます。		

⑤ 羊ヶ丘通の延伸に伴う渋滞の緩和について

大曲地区	緑の保全を図りながら、生活利便性の高い市街地を形成します ■マスタープランP51	良好な市街地環境を形成するため、市街地周辺の緑を保全しつつ、だれもが安心して利用できる道路や公園などの都市基盤の整備や地域商業施設の充実を図り、高齢者にも住みやすい市街地の形成を図ります。	●広域的な人や物の移動、近隣市町との連携を強化するため、国道36号、羊ヶ丘通の道路交通機能の強化を促進します。	●平成29年3月に羊ヶ丘通が国道36号（月寒通）まで延伸された。国道36号以降の羊ヶ丘通延伸について、平成29年度より恵庭市と意見交換会及び北海道を含めた勉強会を実施している。輪厚スマートICについては、平成28年9月に24時間化した。 ●開発局や近隣市、関係機関との連携を図り北広島IC周辺の渋滞対策の検討をしている。 渋滞緩和のため交差点改良（大曲中央通）を北海道に要望している。	●羊ヶ丘通が延伸し、輪厚スマートICとつながれば、非常に便利となる。
西部地区	生活の利便性を高めながら、コンパクトな市街地を形成します ■マスタープランP57	西部小学校、西部中学校の周辺に生活の利便性を高める公共・公益施設を配置しつつ道路や公園などの都市基盤施設を整備し、地区における中心地を形成するとともに、市街地内での利用されていない土地を有効に活用し、緑に囲まれたコンパクトな市街地の形成を図ります。	●輪厚パーキングエリア周辺は、スマートIC機能など地域特性を生かした土地利用について検討を進めます。 ●広域的な人や物の移動、近隣市町との連携を強化するため、国道36号の道路交通機能の強化を促進します。広域幹線道路である羊ヶ丘通については、輪厚スマートICとのアクセスや北広島団地地区と西部地区を結ぶ幹線道路との接続、恵庭市までの延伸に向けた検討を行います。尚、輪厚スマートICの24時間化について検討を行います。	●輪厚パーキングエリア周辺の土地利用の検討は進んでいない。 ●平成29年3月に羊ヶ丘通が国道36号（月寒通）まで延伸された。国道36号以降の羊ヶ丘通延伸について、平成29年度より恵庭市と意見交換会及び北海道を含めた勉強会を実施している。輪厚スマートICについては、平成28年9月に24時間化した。 ●開発局や近隣市、関係機関との連携を図り北広島IC周辺の渋滞対策の検討をしている。 渋滞緩和のため交差点改良（大曲中央通）を北海道に要望している。 ●輪厚中央通の整備に合わせ、周辺の未整備であった輪厚新生地区の区画道路の整備を実施し、平成30年度に完了した。	●国道36号の札幌・千歳間の渋滞は、「渋滞緩和について、国・北海道に要望をしていく」や「大曲周辺の渋滞については今後も状況把握に努め、関係機関との協議を進めていきます」等の記載をするべき。 ●「輪厚スマートICからの利用動向を踏まえ、新たなアクセス道路の必要性を検討します」等の記載が必要。

⑥ BP地区の記載方法について

東部地区					●BP地区は、現段階では「第6の地区」とせず東部地区の一部として記載を進める方向で検討。 ●この場合、地区別構想のみならず、他の章でも記載の必要性があるため、「BP地区は…」の書き出しで統一してはどうか。
------	--	--	--	--	---